

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人鹿屋体育大学

## 1 全体評価

鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立の体育大学という特性を十分に生かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有為の人材を輩出するとともに、体育・スポーツ学分野における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与することを目指している。第3期中期目標期間においては、国際社会で活躍できる有為な人材を養成するとともに、東京オリンピック・パラリンピック大会での活躍を目指す学生をはじめ、国内のトップアスリートの競技力向上につながる科学的サポートを実施すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、スポーツパフォーマンス研究や貯筋運動プログラム等の特色ある取組を学外に積極的に公表し、企業や自治体からの受託研究及び寄附金の獲得につなげているほか、学生の自主性、企画力、創造性を養い、キャンパスライフの充実を図ることを目的とした「鹿屋体育大学学生挑戦プロジェクト」を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- スポーツエンジニアリング分野の研究を推進するため、連携協定の締結校である奈良先端科学技術大学院大学で開催された国際シンポジウム等を通じて、鹿屋体育大学の若手研究者2名を中心に、国内外の研究者との国際共同研究を開始している。また、国際競技力向上のためのスポーツパフォーマンス研究として、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに出場した選手4名を対象に、フォースプレートやモーションキャプチャ等を用いた測定を行い、アスリートのパフォーマンス向上に資するための客観的データを得ている。（ユニット「スポーツ指導の質の向上及び国際競技力向上を目的としたスポーツパフォーマンス研究の推進」に関する取組）
- 各市町村における、スポーツに関する施策とスポーツ振興のための事業についての現状を明らかにすることを目的に、鹿児島県内の地方公共団体を対象として「地域におけるスポーツ環境の現状に関する調査」を実施し、その調査結果を大学の学術情報リポジトリに公表している。（ユニット「国民の体力・運動能力の向上および健康の維持増進を目的に地域と連携した貯筋運動の推進」に関する取組）

## 2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

## ○ 若手教員の育成に向けた予算配分方法の見直し

従来職階別に配分単価を定めていた教員の基盤的研究経費について、准教授以下の配分単価を最大70%増額し、教授への配分単価と同額まで引き上げることを平成29年度の予算配分において決定しており、若手教員の教育研究活動の支援強化を図っている。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

### ○ 積極的な広報活動等による外部資金比率（寄附金）の上昇

スポーツパフォーマンス研究や貯筋運動プログラム等大学の特色ある取組を自治体や企業等に向け積極的に公表・紹介した結果、地元企業からの大型の奨学寄附金等の獲得につながっており、平成28年度における寄附金に係る外部資金比率は約2.4%（対前年度比約1.9ポイント上昇）となっている。

### （3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

### （4）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

### ○ 学生の挑戦を支援するプロジェクトの実施

学生の自主性、企画力、創造性を養い、キャンパスライフの充実・活性化を図ることを目的とする「鹿屋体育大学学生挑戦プロジェクト」を設立し、学生が自ら企画したプロジェクトの実施に必要な旅費等のサポートを行っている。平成28年度は、海外の棒高跳び事情を体験する企画や保健体育に関する実技指導の総合力を向上する企画を支援し、プロジェクト終了後の学生の留学につながるなどの成果をあげている。